

## 第5回白山市教育委員会会議録

1 日 時 令和6年5月30日（木）午後3時

2 場 所 白山市役所本庁舎4階 402会議室

3 出席者

|          |        |
|----------|--------|
| 教育長      | 清水 茂   |
| 教育長職務代理者 | 竹内 千恵子 |
| 教育委員     | 小寺 正彦  |
| 教育委員     | 尾張 勝也  |
| 教育委員     | 安川 薫   |
| 教育委員     | 佐賀 一夫  |

4 事務局

|           |        |
|-----------|--------|
| 教育部長      | 谷口 由紀枝 |
| 教育総務課長    | 西村 幸広  |
| 学校教育課長    | 藤 法生   |
| 学校指導課長    | 齋藤 信之  |
| 生涯学習課長    | 米木 伸一  |
| 松任図書館長    | 澤田 憲司  |
| 子ども総合相談室長 | 浅香 弥生  |

書記職

|           |       |
|-----------|-------|
| 教育総務課課長補佐 | 長島 史晃 |
| 教育総務課係長   | 山崎 有香 |

5 傍聴人 なし

6 案件

議案第24号 令和6年度白山市一般会計補正予算（教育費）について  
議案第25号 地域学校協働活動推進員の委嘱について

7 議事の経過等 以下のとおり

清水教育長の開議あいさつに続いて、議事録署名委員として佐賀委員を指名した。  
諸般の報告について、教育部長より教育長が出席した行事の主な概要について報告した。

■主な行事の概要（４月２４日の教育委員会以降の報告）

- ・ ４月２６日（金） 令和６年市議会４月会議
- ・ ４月２７日（土） 白山市ＰＴＡ連合会総会（グランドホテル白山）
- ・ ５月２日（木） 令和６年度全国中学校体育大会石川県実行委員会第２回役員等研修会（総会）（教育プラザ富樫）
- ・ ５月９日（木）～１０日（金）  
第７４回全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会長崎大会（長崎県長崎市）
- ・ ５月１２日（日） 第３４回若獅子旗争奪中学選抜剣道白山大会閉会式（白山郷体育館）
- ・ ５月１７日（金） 県市町教委連定期総会（教育プラザ富樫）
- ・ ５月２２日（水） 令和６年度白山市子ども会連合会総会（鶴来総合文化会館クレイン）
- ・ ５月２３日（木） 子どもの権利委員会（４０２会議室）
- ・ ５月２４日（金） 叙勲伝達式（特別応接室）
- ・ ５月２７日（月） 令和６年度石川県へき地複式教育振興会第１回理事会（金沢市役所第２本庁舎）
- ・ ５月２８日（火） 白山手取川ジオパーク推進協議会総会（市民交流センター）

本日の議題に入り、議案第２４号、議案第２５号について、質疑・応答が行われ、原案どおり承認し閉会した。

【案件の説明および諸報告について】

案件について、事務局より説明・報告し、承認された。

【主な質疑・応答の内容について】

○令和６年度白山市一般会計補正予算（教育費）について

（小寺教育委員）

いしかわ道徳教育推進事業、学力向上プログラム推進事業及びエネルギー教育推進事業は、対象校は１校ずつか。２、３校とするわけにはいかなかったのか。

（齋藤学校指導課長）

国、県の方から１校という指定がありました。

（竹内教育長職務代理者）

学力向上プログラム推進事業の２０万円の使い道は、大体どういうことを想定されているのか。美川小学校のいしかわ道徳教育推進事業は、公開授業をして毎年冊子を作って、とい

った見当がつくが、学力向上プログラム推進事業は今年度の新規事業という説明だったので、一体どういうことを想定して、20万円でどんなことができるのか。

(齋藤学校指導課長)

予定では3年間の事業になっております。要綱の中では、予算の関係だと思われませんが、1年毎とお聞きしています。来年度は、公開発表という予定にしております。今年度は、その知識を貯める意味でも、大学の先生を招へいするほか、研究主任等の研究推進する教員を推進校の見学・研究に派遣する旅費としていく予定にしております。

(尾張教育委員)

いろいろな推進事業、研究指定校という制度があつて、お金がつくのは現場にとっても非常にありがたいことだが、そのために過剰に何かをしなければいけない。公開発表会があるから、子どもたちのため以外に必要以上のことをしなくてはいけない、という現場への無言の圧力を感じているようだ。対象校の教職員が、良い教育ができて嬉しいと思うのなら良いが、本来よりもやりすぎるような、現場へのプレッシャーになったり、負担になったりすることはやめていただきたい。学校の先生は頑張るから、やらなくてははいけないという気になって、子ども不在になってしまう。発表ありき、公開ありきになるという現状をよく知っているので、何回も言うけれど、お金がついて、いろいろなことができるようになることはとても素晴らしいことだが、現場の先生が、より自分たちの主体教育をやりやすいような制度であつてほしいと前から思っていた。

(竹内教育長職務代理者)

北陽小学校はご自分で計画を出して手を挙げたのか、それとも指定されたのか。

(齋藤学校指導課長)

これは県の方からで、北陽小学校では昨年度までも金沢大学の先生を招へいするなどして、研究を進めていたということもあつたかと思います。

(尾張教育委員)

以前説明があつたと思うが、コミュニティスクール推進事業のコーディネーターへの報酬の積算根拠162時間について再度説明してください。

(藤学校教育課長)

162時間というのは県の内示による時間となります。

(尾張教育委員)

コミュニティスクールは、今後、学校のあり方等含めて、とても重要になってくる。学校

と地域と家庭をつないで、学校だけではなく、みんなで子どもたちを育てていくということに、うまくいけばとても良いシステムだと思う。コーディネーターは、その中でも大変大事だ。コーディネーターの頑張りで、その地域が本当にまとまっていくのか、思ったような成果を上げられないのか、この人だけに懸かっているわけではないけれど、とても重要だと思う。何が言いたいかというと、もう少し報酬を上げて良いのではないかとということで、それだけ大事な役職だということを、本人も含めて周りに対して示すためには、これだけの報酬が支払われていることを公表すると、良い意味で緊張感、やる気が出るのではないか。お金が全部ではないけれども、ボランティアだけではなかなかできないし、自分自身も教育委員として報酬をいただいているので、きちんとやらなければいけないと思うところが正直ある。例えば、事業をする、学校で打ち合わせをするという時間以外に、調整等、目に見えない時間がたくさんかかると思う。だからそういうことも鑑みて、今後どうしていくかを検討していただきたい。

(藤学校教育課長)

1, 400円の単価につきましては、補助単価に基づいています。その金額が妥当かどうかというのは、今後研究していきたいと思います。